

富士市立高等学校 学校運営協議会		第16回	会議要旨 (平成30年度)
開催日 平成30年6月11日 月曜日 開 会 18時30分 閉 会 20時35分	会議場 富士市立高等学校 2階 P I Rルーム		
出席委員等 【委員】 畑 隆 櫻井正人 塩田真吾 鈴木愛美 長田結衣 畑 裕美 村田 猛 矢崎 進 山田雅彦 岩田 享 池田将章 味岡俊雄 【オブザーバー】 安倍 徹 望月ゆかり 齊藤隆裕			
開会			
委嘱状・辞令書交付及び新任委員自己紹介			
○教育次長あいさつ ・平成30年3月に告示された高等学校の新学習指導要領では、その前文に「社会に開かれた教育課程の実現」の重要性が述べられている。よりよい学校教育を通して、よりよい社会を作るという理念を学校と社会が共有し、社会との連携・協働によりその実現を図っていくために、学校運営協議会の重要性が益々高まっていく。 ・現行の「総合的な学習の時間」は、「総合的な探究の時間」に改訂される。これは、探究の見方、考え方を働かせて、横断的、総合的な学習を行うことを通して、自己のあり方、行き方を考えながら、課題を発見し、解決していくための資質・能力を育成することを目指すとしている。 ・富士市立高校では、コンセプトの一つに「探究ハイスクール」を掲げ、開校当初から探究学習を中心に取り組んできたが、これからは探究学習の先進校として、更に注目されていくのではないかと期待している。 ・これからの富士市立高校が市民の皆様にとっても、より魅力的で特色のある学校となるにはどうしたらいいか、委員の皆さんから意見をいただき、学校運営に活かしていきたい。			
○会長あいさつ ・富士市立高校は、教育の面ではいろいろと新しい取組を行っている。 ・富士市立高校の探究学習は、全国的にも注目される取組として非常に早期から行われている。 ・経営学者のドラッカーは、「現在は、イノベーションの時代である」という言葉を残しているが、教育面でもイノベーションは必要である。 ・富士市立高校は、教育面でのイノベーションを先進的に行っているのではないかと思			

うが、この学校運営協議会は、とても重要な場であるので、是非委員の協力をお願いしたい。

議事の概要

○学校からの報告

◇平成29年度学校運営協議会委員アンケートについて

- ・海外探究研修に関しては、活動報告がよかったとの意見が多かった。しかし、各学科間の比較がしにくいため、様式を揃えてほしいという要望があった。
- ・授業参観で今後見学したい授業や行事等については、スポーツ探究科とビジネス探究科の特徴のある授業が見たいとの意見があった。
- ・生徒の様子については、好感が持て、パワーポイントやプロジェクターを活用し、分かりやすい授業となっているとの意見があった。
- ・今後富士市立高校が重点的に取り組んでいくべきことについては、探究学習、キャリア教育が多数を占め、その他部活動、サテライト学習、幼保、小、中、大との交流、国際理解教育、広報活動等の意見もあった。特に探究学習については、社会人になってから各々の職場で活かされると感じられるので、拡充してほしいとの要望があった。
- ・学校運営協議会の意見が学校運営に反映されていると思うかについては、肯定的な意見が多かったが、2時間が3回では成り立ちを含め意味がよく分からないので、新規メンバー用に特別な時間が必要との意見もあった。

◇総合的学習に関するアンケートについて

- ・「日常生活の中で知りたいと思うことや不思議だな、なぜだろうと思うことがある」という項目は大変高い割合となっていて、生徒も肯定的に捉えている。
- ・「何か分からないことや困ったことがあった時に、どこに問題があるかを考えることができる」という項目も、高い割合となっている。
- ・「課題解決の筋道を予測し、課題を解決するための計画を立てることができる。」は、60～70%となっているので、問題の所在や興味関心を持つことはできているが、課題をどのように解決していったらいいかという点については、これからまだまだ詰めていく必要がある。
- ・思考判断、「課題の原因や状況等を理解して、自分の考えを持つことができる。」この項目も高い数値となっている。
- ・「相手や目的に合わせて、自分の考えや根拠を明確に整理して表現することができる。」の回答も7割を超える高い数値となっている。
- ・「人とは異なる意見でも、自分の考えを状況に応じて伝えることができる。」は、学校のコンセプトに掲げている「自律する若者」につながる項目であると考えているが、高い数値となっている。
- ・「自分の考えに責任を持ち、自分がすべきことを決定できる。」、「失敗してももう一度挑戦したり、最後までやり遂げようとする。」、「異なる立場や考えを受け入れ、理解しようと思う。」及び「異なる立場の考え方のよいところを見つけることができる。」も、高い数値を示している。
- ・「話し合いのときに、班やクラスの意見をまとめることができる。」は、低い数値

になっている。意見を述べたり、受け入れたりすることはできるが、まとめる能力については、これから更に磨きをかけていく必要がある。

- ・「総合的な学習の時間は、生きていく上で大切なことを学んでいると思う。」「総合的な学習の時間は楽しい。」も高い割合になっている。
- ・「総合的な学習に一生懸命取り組んでいる。」「教科で学習したことを活かして、総合的な学習で調査や分析をしている。」このことは、これからのカリキュラム・マネジメントの中心になってくる事項だと思われ、本校では総合的な学習の時間を教科でも広げているが、逆に教科の力も総合的な学習の力に、相互に活かしていきたいと考えている。この項目の数値は少し低い水準になっている。
- ・総合的な学習は、今まであまり考えなかった問題に取り組んでいる。」は、8割を超えている。
- ・「教科の学習と総合的な学習の時間はつながっていると感じる。」は、6割を超えているが、まだまだ伸ばしていく必要がある。
- ・「総合的な学習で学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う。」は、9割となっており、生徒は学習の価値を感じている。

◇探究学習について

- ・新入生研修を含めて集中研修という研修を行っていて、この研修は力を試してみる研修となっている。学校の中で、又は地域でつけた力を外に出たり、大学生や社会人と共同したりすることで力を試している。ここで本物の力を試すということを年に1回、9月に行っている。
- ・社会の最先端で活躍している人を招いて年6回、春と冬に社会人講話というものを行っていて、これも探究学習、キャリア教育に結びついた内容で話をしてくれるよう依頼している。
- ・職業別講座、学部別模擬授業、1年生が静岡大学で大学生と一緒に授業を受けたりということで、高大連携をしている。
- ・2年生の12月の海外探究研修では、グローバルな視点で力を試している。
- ・総合探究科の3年生の文系では、財務省と共同し、生徒が財政教育を切り口に社会保障について主体的に考えるプログラムを行っている。
- ・ビジネス探究科では、イノベーション教育の専門家を招聘し、イノベーション教育を週に3時間行っている。
- ・スポーツ探究科では体育祭、南稜祭体育の部の自主運営をしたり、生徒会を中心に文化祭の自主運営をしながら、実際につけた力を試している
- ・富士市立高校の学校行事は、けっして単なるイベントとして行事を行っていると
いうわけではなく、全体として体系的につながりを持っている。

◇生徒の様子について

- ・教育目標の「自律する若者、未見の我を探そう」のため、①生活リズムの確立、②生徒の自主性・協調性及び目標に向かって挑戦する意欲と態度を育む、③安心安全な学校づくり、④いじめ防止対策、の4点を掲げて指導を行っている。
- ・本校では、従前には無断アルバイトが非常に多かったが、最近はそのような報告はなく、昨年度も1件もなかったもので、大部減っているものと認識している。

- ・部活動は、教員が自ら進んで部活動の指導ということで、自分たちが組んだメニューを生徒に課すだけではなく、生徒の自主性を重んじて生徒が自ら行えるような部活動を目指している。
- ・生徒が生徒会を中心に決められたルールをしっかりと守っていく中で、学校祭を盛り上げていこうという思いが生徒会を中心に少しずつ芽生えてきた。
- ・自転車のルールの遵守に関し、非常に素直に生徒に聞いてもらっている。
- ・SNSの不適切な投稿に関しての問題行動については、今年度一切報告されていない。
- ・最近、保護者のマナー、大人の交通マナーが芳しくなく、生徒がきちんと自転車のルールを守っていても、交通事故に遭遇しやすい環境になっている。

◇平成29年度卒業生の進路状況について

- ・平成29年度卒業生と平成28年度卒業生とを比較した場合、進学者のうち4年制大学及び専門学校への進学に15人程度の減少があり、その減少した分については、短期大学、公務員、自宅又は予備校に通学しての進学準備に人数が移った。
- ・国公立大学にしても、私立大学にしても「県内志向」という本人及び保護者の意向が強く反映された。逆に、医療、保育、食品関係の希望者が、4年制大学への受験がうまく行かなかったことにより、短期大学で再度調整ということになり、合格となったと考えられる。
- ・富士・富士宮地区で事務系の求人が大変増加した関係で、本校の就職志望者は、女子生徒が多いが、本人及び保護者の要求に応えることができた。

◇平成29年度カウンセリング室の概況について

- ・平成29年度の教育相談室の利用状況は、平成30年1月末現在で68人ということになっており、平成28年度は70人超だったので、相談件数は若干減少している。
- ・特徴としては、平成27年度・平成28年度の2年度間は、2学期にも増加する時期があったのが、昨年度、平成29年度は、2学期の増加がある程度抑えられている。
- ・同じ生徒が長い期間、問題を抱えてしまって、教育相談室を長い期間利用するということがある。現在は、平成30年度であるが、平成29年度に教育相談室を利用していた生徒が引き続き相談を受けている例も見られることから、なかなか解決するまでには時間がかかる。
- ・各家庭との連携をもう少し詰めていく必要があると感じられる。担任を中心として、生徒へのきめ細かな指導が行われていると思うが、各家庭との連携がもう少し改善されれば、更にいい方向に進んでいけると思うので、その部分に力を注いでいきたい。
- ・もう少しだけ中学校からの情報をスムーズに受けることができれば、と考えている。

◇部活動について

- ・陸上部は、6種目で東海大会への出場が決定した。東海大会は三重県伊勢市で行われる。この大会の結果次第で、全国大会への出場が決まってくる。

- ・サッカー部は、東部大会優勝、県大会ではベスト8という結果となった。
- ・柔道部は、東部大会では70kg級、78kg超級で優勝し、また県大会個人の部ではその2人が3位入賞となった。また、団体戦ではベスト8となった。

学校からの報告について意見交換

(質問・意見等)	<p>・「自分は、地域や社会から必要とされていると思う。」という質問に対する回答結果が芳しくない。この項目が上がってこないことには、自信をもって生きていけないので、学校の全ての力を投入してこの項目を上げるというつもりでやらなくてはならない。</p>
(回答)	<p>・この質問に対する回答結果がよくない理由を2つほど考えた。1点目は、これだけやっていてこの数値になってしまうのであれば、もし何もやっていない場合にはどんなふうになってしまうのだろうと思う。もう1つは、体験的な学習を行っているが、そのフィードバック、例えば高校生の力として必要であるとか話されているが、声のかかっている生徒はすごく社会に必要とされているのだなと自己肯定感が高まる。そうした体験、実体験がまだまだ必要なのではないか。</p>
(回答)	<p>・この質問については、他の質問と異なる。この質問は、自分自身を対象化するという視点での質問になっている。主体的に自分の意見や感想を述べる、自分自身の実体験や実際の活動を具体的に話す、ということと違って、自分自身を第三者として、対象として捉えるという点が他の質問と相違している。そこで提案だが、この項目内容を、「自分は、地域や社会から評価されている体験をしたことがある」、又は「地域の人から自分たちの活動を評価されたことがある」という質問に変えたらどうか？こうした質問であれば、自分自身を対象化するというよりも、自分のやったことに対して、自分がどのような評価を受けたかということストレートに述べるができると思う。</p>
(質問・意見等)	<p>・「自分は、地域や社会から必要とされていると思う。」という質問については、生徒はきっと「そうは思わない」という意味で答えたわけではなく、「分からない」という意味で回答しているのではないか。つまり「必要とされているかどうか」は分からない。体験をただだけでは分からない。だから、質問の仕方を変える必要があると思う。カウンセリングの説明について。中学生では、むしろ女子生徒の方が人間関係がうまくいかないとか、〇〇さんがこんなことを言ったので私は嫌だという感じとっていた。カウンセリングの4分の3は男子生徒が利用しているという結果には少し驚いたことが、どのような相談が多いのか教えてほしい。</p>
(回答)	<p>・資料が手元になく、正確には回答できないが、特殊な問題があったように記憶している。例年あるような相談内容もあったとは思いますが、それ以外の特殊な相談内容があつて、男子生徒の利用件数が伸びてしまったように思う。</p>
(質問・意見等)	<p>・「自分は、地域や社会から必要とされていると思う。」という質問につ</p>

	<p>いて、他の項目と比較すると少し数値が低いかもしれないが、当初の数値からすれば上がっているわけで、取組としては間違っていないと思う。</p> <p>富士市立高校はこれまで注目されてきたという側面が非常に強い。しかし、これから学習指導要領が改訂されて総合的な探究の時間ができると、多くの学校でまねをさせていただくと思う。となるとどこをフロントランナーとしてアピールしていくのか、もちろん探究学習の授業については十分PRできるが、その中で過去と比較して、平成29年度から学習指導要領がこういう方向性で変わってくるというのは分かっていたことだから、そのことを踏まえてどんなニーズがあったのか？他校は何を見たいと思ったのか？何を教えてほしいと言ってきたのか？</p>
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどがカリキュラム・マネジメントのことを聞きに来ている。行政、大学等は、地域とか、高大連携だとか、連携の部分聞きに来るが、高校の視察では、探究学習を軸としたカリキュラムをどのようにして作っているのか、体系化しているのか、学校の組織はどうなっているのか、教科への広がりはどのようになっているのか、等についての確認のため視察に来ている。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後他校でも探究の時間というものは増えてきているわけで、当然総合高校もできているわけだから、他校でどういうこともやってきているかということに関しても、富士市立高校以外のところでも少し先進的な事例というものを集め、紹介してもらった方が、その発展に資すると思う。そうした視点で他校での特徴ある取組というものを紹介してほしい。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車のルール、本当に命を守るということは最優先課題だと思うので、子どもたちの命を守るということについて、学警連などでその辺りの話し合いの機会を更に設けてたらどうか。 <p>地域との連携ということが叫ばれる中、家庭との連携はなかなかされていないのではないかと。まさに、コミュニティ・スクール、ファミリー・スクールというわけではないが、家庭との連携、様々な機会を通して保護者とのコミュニケーションのあり方、生徒を通しての家庭との連携の在り方ということも必要になってくるのではないかと。</p> <p>本日卒業生も委員として出席しているが、卒業した後3年間での総合的な学習の時間等々、富士市立高校で受けた教育というものがどのように活かされているのか、他の学校の卒業生と比べて一味違った大学生活を送ることができるのかということも、追跡調査の中で、まあこれは大学だけでなく、専門学校もそうかも知れないが、3年間で受けた教育というものが、どのように次のステップで活かされているのか？</p>
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の個人の話になるが、大学で1年次にプレゼンテーションの授業

があり、その時に、自分自身富士市立高校で学んできたので、プレゼンテーションはやりなれていると思うが、例えば高校3年間でプレゼンテーションをする時、原稿を丸読みするのはよくないと学んでいる。このため、これまでに単に読む、発表するのではなく、内容を伝えるということを大事にしてきた。この点について、他の学校出身の学生は、最初の授業で終始原稿を見て丸読みしていたのが印象的だった。富士市立高校の卒業生は、丸読みするのは当たり前ではなくなって、しっかり伝えることをメインにしてきたので、そういう点では学んできた甲斐があったと思った。

○平成30年度学校経営計画について説明と承認

◇平成30年度学校経営計画について説明

- ・学校経営計画書は、全体として用語の統一を図り、取組目標を12項目から8項目にまとめ、取組目標として新たに事務室の取組目標を加えた。
- ・2の本年度の取組で、アの「生活及び学習集習慣の確立」で、昨年度までは「生活及び学習リズムの確立」としていたが、表現を改め、成果目標の部分も、「欠席・遅刻・早退を昨年度より減へ」と記載していたが、昨年度の学校運営協議会で「昨年度より減」という記載では常に昨年度よりも上昇させなければならないので、できれば変更した方がよいという意見があったため、「各クラス延べ欠席数20人以内、延べ遅刻数5人以内」と具体的に記載することとした。
- ・2で平成29年度に「平均2時間以上の家庭学習時間の確保」という部分も平成30年度では「平均2時間以上家庭学習を行う生徒60%」かつ「週5日以上家で勉強している生徒80%」という数値を入れた目標とした。
- ・前回の学校運営協議会の際、平成29年度の計画書の評価として、アの部分については一応「B評価」とはするものの、実際には「C評価に近いB評価」であるとの評価を受けた。このため、平成30年度は、記載のとおり明確な目標に変更した。本校でも、生徒をいかに勉強させるかという点が最も重要なことである。
- ・イの「魅力ある授業実施と授業力向上」について、「授業到達率が昨年度より上がった教員が30%以上」ということで、「昨年度より」という目標になっている部分については、「授業評価目標得点率(75%)に到達した教員80%」とした。
- ・ウの中にも「各種検定取得者数が前年度より増」となっていたが、この目標も前年度比較となっていたので、「簿記検定1級合格率80%及び商業系検定1級合格率70%」と数値を入れて目標を明確化した。
- ・エでは、まず達成方法(取組手段)に新規に「富士市教育改革実施計画の検証」を追加した。また、学習指導要領の改訂に伴い、平成34年度から新教育課程に移行することもあり、「現行の教育課程の検証」、「平成33年度大学入学者(現1年生)選抜の研究」及び「英語4技能評価に対応した選抜方法の研究、実践」という項目を追加した。
- ・オでは、「海外探究研修の検証と充実」ということで、保護者及び生徒

<p>の満足度95%を目標とした。また、「学校行事・部活動に満足している生徒90%」と数値化した目標を盛り込んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カでは、国の働き方改革を踏まえた修正を行った。本校においては、達成方法のところに「ワークライフバランスの観点から働き方改革の推進」として定時退庁の推奨及び部活動の計画的な活動及び休養日の厳守を新規に追加し、成果目標として「週3日以上午後8時以降に残留する職員0人」とした。 ・キは、PTAの出席率について、本校では出席率が低いので、出席率60%という目標とし、更に新規の目標として「本校が地域に開かれた学校と感じる保護者85%」を設けた。 ・クは、今回事務部の所掌を新規に追加し、成果目標として適切なスクールバスの運行、学校食堂の適切な運営等を掲げた。 	
平成30年度学校経営計画について意見交換	
(質問・意見等)	・成果目標としてPTA総会出席率60%というのはかなり厳しい目標だがどうか？
(回答)	・できる限り多くの父兄に参加してもらいたいため、少し高い目標を設定した。
(質問・意見等)	・大学入試改革及びワークライフバランスについて目標を入れた非常に大きな視点である。
(質問・意見等)	・スクールバスの利用者の減少の原因及び今後の方向性についてどのように考えているか？
(回答)	・スクールバスについては生徒が利用するので、あまり高い料金の設定はできない。利用者減少の原因は、下校時2便というのが少し生徒に不便なのかもしれない。今後も、利用者数が少ない路線については廃止せざるを得ない。
(質問・意見等)	・4年制大学への進学が減少したことが少し残念。止むを得ない部分もあるが、成果目標に4年制大学100人以上とあるので、是非この成果目標を目指して頑張ってもらいたい。
(承認)	・→平成30年度富士市立高等学校学校経営計画書
次回日程について	
閉会	